
魔法少女 ちこ

11月の子供

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女 ちこ

【Nコード】

N4080J

【作者名】

11月の子供

【あらすじ】

魔法少女と少年の物語です。

欠落と欠陥と完璧と完全の話です。

綺麗で汚れた歪んで純粋な世界をどうぞ

第1説 出会い

魔法や超能力

悪魔や天使

聖霊や守護霊

怪物や悪の組織

唱えると出てくる魔物

5人+ の戦士

巨大ロボと巨大怪獣

数分しか戦えない戦士

バイクに跨がるヒーロー

学園で行われる超能力バトル

萌えっ子

そして、魔法少女

それがアニメや漫画の世界だけの話と考えている人間がこの世にいるのだろうか…。

そんなもんファンタジーでしかありえないと

しかし、現実はそのような平和的思考から掛け離れた

もっともっとめんどくさい愛とか平和だけで解決することの出来ない、悪と正義と幻想で溢れている世界だ。だから、今回は僕の残念

で残念で、とても忌み嫌うくそつたれで最高で愛すべき親愛なる世界の話を…

見てもらおう事にしよう。

- - -

8月31日。それは学生にとっても重要な1日であろう。

それは僕、十羽野みことにしてもある。

そして、そんな大切な1日から全てが始まった。

正確には

8月31日、0時17分。

こんな31日の成り立てに、何の障害物の無い真夜中の路上で、全ては始まった。

「世界平和の為の犠牲になって下さい」

8月31日、夏休み最終日、こうして僕は少女の無垢な笑顔と鋭い鈍痛と共に

死んだ。

- - -

9月1日

「本当に死んだのかな？…ちょっとー死んでますかー…死んでたら、殺して燃やして殺して刻んで殺しちゃいますよー」

甘い声。

甘い小鳥の囁りの様な声。

脳に直接響く様な官能的な声。

「し……ね……るかあああああ！」

多分、今までで素敵に最悪の部類に入るであろう目覚め。

そして知らないベット。家。瓦礫。瓦礫と瓦礫の集まり、集合体。そして、（美）少女。

「もう、お兄ちゃんやっとなきてくれた」

ふと目を向けると、今まで見たことがないくらい存在感が薄い、淡く儂い、この世界から消えそうな少女が話し掛けている。

「まったく何生き返ってんのよ？そこは死んどくべきでしょ？……むしろ死になさい。今すぐ自害しないさい。」

先程までとは違う、意識しなくてもはつきりと感じ取れてしまう殺意。

凶変。甘美。狂気。

何もかもが理解出来ない。

見ず知らずの場所。

見ず知らずの少女。

その少女が発する甘美と狂気という言葉。

「え…つと。ごめん。何がなんだか分からないんだけど…よかったら説明…」

「昨日、あんたは、死んだ、私が殺したから。以上！！それだけ！」

僕の言葉を途中で遮り、少女が喋る。とても理不尽な内容を。

「死んだ…つて、僕はこうして生きてる」

はずだ。此処が天国
じゃないなら。

ちらりと少女に視線を送る。

深紅のワンピースを着ている少女に。

ピッ

見れば少女の手にはリモコンらしき物が握られている。

そして、どこからともなく、瓦礫と瓦礫の間から、機械音と共にアナウンスであるう音声が聞こえて来た。

「……昨日未明出現した、未確認怪物23号は《可憐で最強、国家特別組織7人の1人…魔法少女ちこ、の活躍により倒されました。この戦闘におけ……》」

ブッン

「分かった？それが私。私が魔法少女ちこ。あー…理解出来る、理解？」

「つまりね、私が世界の平和を守ってるの。だから世界平和の為にあんたに死んでもらった訳。」

「全世界の人間の命に比べたら1人の人間の命なんてどうでも良いじゃない？なのに何故か殺したはずのお兄ちゃんは不思議に理解不能に生き返った。ぐっちゃぐっちゃのボロ雑巾以下の肉塊だったはずなのに…」

少女は更に話し続ける。

「私は人を殺したいの！殺して殺して殺して、その上に更に人を殺したいの。」

「だから、私は人を殺す代わりに世界の平和を守ってるの！それも国にちゃんと認められた上でね」

僕は喋れない。何を話して良いのかわからない。

そして少女は僕達が出会った時と同じ言葉を口にする。

「だからね

お兄ちゃん

世界平和の為の犠牲になって下さい

「

少女の言葉は全てに逸脱していた。

まるで子供が駄々をこねる様な一方的な感情に任せた言葉。
それを上回る狂気。

だから…

だから……

だから僕は逃げた。

ベットから飛び降り、瓦礫と瓦礫を掻き分け、ただ少女と距離を取るためだけに。

走って走って走って走って

「逃げたらダメでしょ」

そして、9月1日、僕は何も理解する事なく、何も知る事なく、

また

死んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4080j/>

魔法少女 ちこ

2011年1月19日04時01分発行